

編集委員会便り

新年明けましておめでとうございます。本誌も今年で第14巻を迎えることになりました。何卒、今後ともよろしくご愛読くださるようお願い致します。

さて、今月号の特集は、本誌としては初めて「研究論文特集」としてみました。テーマは、地球環境とCO₂対策です。現在、エネルギー、資源をめぐる最大の課題は、地球環境問題ではないかと思われ、地球と等身大となった人間の生活・産業活動が地球環境に大きな影響を及ぼしつつあり、このままでは将来地球は重大な危機に傾するであろうと云われております。特に昨年はブラジルのリオデジャネイロで、いわゆる地球サミットが開催されたこともあり、地球環境問題が最大の話題となりました。本学会主催のエネルギーシステム・経済コンファレンスおよび総会時の研究発表会でも、地球環境問題そのなかでも一番の問題である地球温暖化に係わるCO₂対策に関する研究発表が数多く行なわれました。CO₂対策は我々の生活・産業活動の基幹であるエネルギー問題に直接重大なかわりを持つだけに、技術開発をはじめ社会経済等あらゆる分野からの発表がありました。

この研究発表を公表だけで終わらせるのは勿体ない。研究論文特集にできないかという意見が持ち上がり、発表会の座長さんから推薦のあった発表を中心に投稿して貰いCO₂関連の研究論文特集とすることになり筆者がそのとりまとめを依頼されました。事務局を通じ折衝の結果、本誌掲載の通り、CO₂排出課税に対する影響評価分析等社会経済的な側面に関する論文3件、排ガスからのCO₂分離回収技術に関する論文3件、新しい燃焼システムによるCO₂回収技術に関する論文2件、回収CO₂の処分に関する論文1件の計9件の研究論文が集まりました。それぞれ専門の研究者による力作ですが本誌規定の査読委員会による審査を行ないました。審査は、査読委員と二人の査読者によって行なわれ査読者の意見・判定が別れた場合はさらに別の査読者をお願いし、査読委員の意見をもとに査読委員会で最終決定されることになっております。今回もいろいろ意見調整がなされましたが、特に今回



編集委員会風景 (H. 4. 12. 15)

は沢山の論文を短期間のうちに審査することになり、査読の方々に大変なご苦勞をおかけしました。ご尽力に対しお礼申し上げます。

毎回の編集委員会で議論の中心になるのは特集テーマの決定であります。今一番問題になっている事項は何か、面白い課題は何か、読者の皆さんが知りたいがっているテーマは何か、エネルギー・資源という部門横断的な学会誌だけに、皆さんからのアンケート調査によるテーマ等を中心にしながらか広い範囲で検討し決定していくわけですが、いつも苦勞しているところでもあります。それともう一つ、3年程前に研究会から学会へ移行したこともあり、学会員からの研究論文を毎号数件は掲載したいという希望もあります。

そこで、本誌としては初めてのこのころみであります。特集を研究論文特集とすることが検討されこの企画が実現しました。従来の特集が、それぞれのテーマに沿った解説あるいは具体的な事例に基づいた比較的読みやすい内容であるのに対し、研究論文特集ということで全体的に固苦しい感じになるのではないかと懸念もありましたが、学会誌ということで敢えてとりあげてみました。読者の皆さんのご感想は如何がだったでしょうか。

須納瀬 満幸

(関西電力㈱研究開発部調査役)